

自 令和5年4月 1日  
令和5年度（ ）会務報告書  
至 令和6年3月31日

一般社団法人日本絹人織織物工業会

## 1. 会員異動

	本年度初	増 加	減 少	本年度末
会 員 数	3 1	0	1	3 0

## 2. 業務報告

### (1) 一般概況

令和5年5月に新型コロナウイルスが5類感染症になったことにより、3年ぶりにコロナ禍以前の活動に戻りつつある。

繊維産業として人材の確保の観点から特定技能制度の分野追及に向けた環境整備に取り組んでおり「繊維産業における責任ある企業行動ガイドライン」の趣旨を理解し、同ガイドラインに沿って人権尊重の取組みを進める関連企業の方々に、取組内容を「責任ある企業行動実施宣言」を行い、これを公表した。

こうした活動を通じて、繊維産業が抱える人権課題の改善に向けて、活動を行った。

和装業界については、コロナ禍で着る機会が喪失（結婚式、祝賀会、お茶会、観劇、食事会等）したことにより、小売市場の売上が激減している。こうした状況が続いているが、洋装、カバン、服飾雑貨、産業用資材といった新たな分野への販路開拓も始まってきている。

令和5年（暦年・以下同）の化合織（長）織物の生産量は590,813千㎡で前年比100.5%のほぼ横ばい、輸出は423,098千㎡と前年比98.6%と減少、輸入は379,751千㎡で前年比96.7%と減少で推移した。

一方、絹織物の生産量は4,788千㎡と前年比86.0%と減少、輸出は3,213千㎡と前年比86.2%と減少、輸入は2,515千㎡と前年比89.7%と減少で推移した。

化合織（長）織物、絹織物ともに、令和4年度において対前年比ではやや下げ止まり感は見せていたが、令和5年度では為替の止まらない円安の影響を受け、厳しい業績となっている。

## （2）産地振興対策

平成24年度からは、一般社団法人（公益目的支出計画を完了するまでは移行法人）としての公益目的支出計画に基づき、絹・合織織物の普及を目的とした「展示会開催等助成事業」及び「展示会出展支援事業」をホームページで公募を行い、事業を実施している。

### ア 展示会開催等助成事業

令和5年度の「展示会開催等助成事業」は全国34の産地組合から34件の申請があり、その事業内容は、展示会、新商品開発事業、広告・PR事業等で事業総額303,655千円に対して、本会から183,610千円を助成した。

なお、今年度もコロナ禍であったが感染予防対策を取りながら展示会開催等は、概ね予定どおりに行われた。

### イ 展示会出展支援事業

#### ① 海外展

一般財団法人織質会館の助成を得て、今年度は「The Japan Observatory」at Milano Unica（会場：ミラノ市 Rho Fieramilano）へ2回の海外展への出展を予定した。

2024 A/W 展は、新型コロナウイルス感染症の影響があったが7月11日から13日まで開催され、当会からは福島、山梨、福井の3産地組合3企業が出展した。

1月30日～2月1日開催された2025 S/S 展は、当会からは福島、福井の2組合から2企業が出展した。また、当会の出展支援事業以外で西陣、丹後の2産地組合9企業が出展した。

#### ② 国内展

全国の繊維産地・企業が一堂に集結する国内唯一の繊維総合見本市である「JFWー  
ジャパン・クリエーション2024」は、10月31日～11月1日の2日間、東京  
国際フォーラムで開催された。

今年の出展社数は217社、来場者数は前年並みの、約11,000人であった。  
今展示会の新企画「What's Next」～次の売れ筋テキスタイルの来場者による人気コン  
テスト～において、日絹傘下の機業が、第3位と第4位に入賞。出展素材の素晴らし  
さ、可能性が評価された。また、「新しい素材を見たい」というバイヤーも多く見受  
けられ、各ブースでは熱心な商談が行われていた。

日絹ブースにおいては、16産地組合（78社、5グループ、8団体、2校）、で  
94小間の出展となった。各ブース内では出展者による意欲的なプロモーション、来  
場者との活発な商談が行われ、展示会終了後には、次回への継続出展の声も多く聞か  
れた。

### （3）生糸・絹織物問題

生糸の輸入については、令和5年度の繭及び生糸の関税割当枠は、798トン、生糸  
換算では13,300俵となった。本会関係は9組合17件で合計346トン、生糸換  
算では5,762俵の関税割当申請を行ったが、これは全体割当枠の43.4%となり、  
年度末の輸入実績は168トン、2,798俵、前年比88.9%、割り当てに対する消化  
率は49%、前年比は90.7%であった。

### （4）各種振興事業

#### ア 人材育成事業

人材育成事業については、産地組合が独自に実施する海外研修事業等への助成を行っ  
ているが、令和5年度もコロナ禍により海外研修事業を行うことができず、組合事務  
局及び役職員の渡航費等に対しての助成は行わなかった。

#### イ 表彰事業

各産地組合及び関係団体においては、絹人織織物の需要開拓のため織物求評会・展示  
会等を開催しているが、令和5年度は5組合2関係団体8事業の優秀作品等に対して本  
会会長賞を交付した。

#### ウ 産地間連携

令和5年度もコロナ禍により全日本帯地連盟（桐生組合、西陣組合、博多組合）は、開催出来なかった。

#### （5）情報提供事業

日絹月報、月次統計データ（織物需給表等）、年次統計データ（絹人織織物統計年報）を引き続き作成した。また、今年度は「パートナーシップ構築宣言」、「繊維産業の責任ある企業行動実施宣言」、「繊維産業の適正取引の推進と生産性・付加価値向上に向けた自主行動計画（第6版）」を周知徹底するとともに産地振興に寄与すると思われる情報を適時、ホームページ等で情報提供を行った。

#### （6）その他

##### イ 和装振興協議会

きもの産業の様々な課題に取り組むため、平成27年11月に経済産業省と関係団体等で立ち上げた協議会であり、毎年11月に開催されている（きもの日：11月15日）。

今年度は、取引適正化にかかる取組、下請中小企業振興法「振興基準」及びパートナーシップ構築宣言、きもの振興についての取組み、大阪万博について、意見交換等が行なわれた。

##### ロ 一般社団法人全日本きもの振興会

コロナ禍で結婚式葬儀などの冠婚葬祭は延期や中止、簡素化が相次いでおり、留袖などフォーマルきもの需要が著しく落ち込んでいる一方、成人式の振袖市場は、式典の中止や延期、規模の縮小などの影響はあるものの、前撮撮影によるサービスの充実や既存の小売業との連携、全国規模で展開する大手写真スタジオが撮影とレンタルを組み合わせたサービスの提供を行うなど、フォーマルきもの市場が低迷している中で健闘している。

##### ハ 和装（きもの文化）ユネスコ登録推進・連絡協議会

日本のこころや文化の象徴として「きもの文化」のユネスコ無形文化遺産への登録を目指し、活動を行っている。

##### ニ 生活文化調査研究事業（和装）

文化庁は、和装を次世代に継承していくためにどのような方策が必要なのか具体化するを目的として、詳細調査を実施した。

ホ 勲章受賞者

本年度における栄えある勲章受章者の本会関係者は、次のとおりであり心よりお祝い申し上げます。

旭日双光章（秋） 牛腸 章 様 （桐生組合）

へ 蚕糸功労者表彰受賞者

本年度における大日本蚕糸会の栄えある蚕糸功労者表彰受賞者の本会関係者は、次のとおりであり心よりお祝い申し上げます。

蚕糸功労賞 坪井 秀夫 様 （西陣組合）

以上のとおり、令和5年度において事業を実施したが、繊維業界及び産地を取り巻く事業環境は極めて厳しい状況が続いている。

本会は、展示会、新商品開発、新市場の創出、人材育成など産地組合が行う積極的な各種事業に対して、引き続き支援して参りますので、会員各位のより一層のご理解、ご支援をお願いいたします。